

丁山地 大沢川～三滝山周遊 ～明神沢

大野

【日時】 2011年8月13日(土)～8月17日(水)

【メンバー】L大野、田村、佐貫

今年のお盆はどうするか。当初狙っていた下田河内は、新潟・福島豪雨の影響で大きな被害。アプローチは何とかなるにしても、いつもお世話になっている地域で、復旧作業に勤しむ人々を横目に山に入る気分にもなれず。

代替案。飯豊；それほど強いメンバーでもないし、代案で行くところでもない。北アルプス；そもそも思い浮かばない。和賀；少々安直。という議論をしていた源太郎で田村さんが漏らした言葉が「ヒノト」。学生時代から、美しいブナ森が広がると聞いており、行ってみたい山域リストの結構上にあった山域。しかし、あまりにマイナーだし、沢の記録も見ることがない。折角の長期休暇で良いのかなあと、佐貫さんには「スカかもしれないよ」と言ってみたが、よくある話と快諾。瓢箪から駒で山域が決まっていた。

予想外に長い沢がないので困ったが、一番奥深そうな大沢川流域で、太い下流域とげじげじマークを組み合わせ、適当にラインをとると、もっともらしい計画ができあがった。未踏のわけはないが、大系にも記録がない計画。へへへと笑いが浮かぶ。

田村さん・佐貫さんは金曜日中に18切符で新庄入り。大野は最終新幹線で山形へ。

8/13 晴れ時々曇り

9時前に真室川駅で合流。真室川の駅には野菜も売っており、ここで調達すれば良かったと思うことしきり。

駅から乗ったタクシーはプリウス。震災の時のガソリン不足の話などを聞きながら、高坂ダムへ。湖岸を奥に入る林道は想像以上に悪く、いきなり底を擦る。タクシーは、それなりに頑張ってくれたが、所詮はプリウス。1kmも入らないうちに、挟られた林道を前に、ダメだこりゃ。2時間弱の暑い林道歩きが加わった。

雨量計と思しき建物の手前で沢床に降りる。穏やかな流れ。水量も少ない。某山塊と比べれば遥かに少ないが、アブも飛んでいる。白黒の小さい奴だけではなく、大きいのもや碧眼金色のなど種類はいろいろ。

明神沢を分けると、兩岸が迫ってくる。大沢川は、美しい森の中をゆったりと流れ、時折現れるゴルジュも、腰を濡らす程度で通過できる。右岸の大きな流れを分けると、周囲は平穏になり、気持ち良いブナの森が広がる。林道から遠ざかるに従い、魚影も現れる。何故か雨がばらついてきたこともあり、沢が東に向きを変える辺りにテン場を見出した。

勤勉なアブがブンブン飛んで鬱陶しいことを除けば、気持ちのよいテン場で、真室川駅で仕入れた枝豆などを食らいながら、まったりと時間を過ごす。田村さんが釣りに出かけたが、人擦れしたイワナを釣り上げることはできなかったようだ。



【大沢川下流部。ネットを被る】

8月14日（日）曇

幕場から20分程で328出合。

余計な荷物を置いて三滝山周遊に出かけることにする。この枝沢の下部は、桂の大木が立つ巨木の森である。森の中を流れる沢は、地図上の大ゴルジュが始まって、予想通り何もない。ようやく400m二俣から滝が連続し、さっそくの20mくの字滝は、念のためロープを出す。お助けを駆使しながら滝を越えていくと両門の滝となっている520m二俣。右俣に入り、小滝を越すと、核心の大滝が出現。何段かに分かれた見事なスラブ滝だ。「ええーっ」という声を背後に聞きつつ、ロープを出して右側の黒く濡れたスラブを探ってみたが、空荷で頑張ればギリギリ行けるかもしれないという悪さ。今回は自重して、一番右側のルンゼ状を登る。ここも見た目ほど楽勝ではなかったが、30mで灌木にビレイ。その後は水流沿いに戻り、合計4P。高度感はあるが、ペタペタと歩くスラブが2Pと容易な15m滝1Pである。

その後はスケールが小さくなるが、小滝をたくさん越え、ヤブを一登りで稜線に出た。少し北に登り、慎ましい三角点に挨拶。すっきり快晴とはいかず、すぐ近くに聳えるはずの鳥海が見えなかったのが残念。

下り始めは南東にコンパスを切って降りていく。イタドリの草付き斜面を下り、荒れた沢が続く。300m程下り、ようやく出てきた滝はフリクションもよく効き、適当に下れる。左から入る大きな流れに合流し、しばらくで地図の滝マーク。パッと見で降りられないので、左岸巻き。懸垂になるかと思ったが、連瀑の中段に問題なく降りられた。下段は、左岸のスラブを慎重に下り、結局、懸垂なしで降りてしまった。450mの二俣からは予想通り穏やかで、桂の大木が時折現れる独特の森だ。テン場適地も至るところにあり、秋ののんびり訪れることができたら素晴らしいと思う。

本流に戻ってすぐに左岸から枝沢が入る。水量も少なく荒れた感があるが、明日の登路。この対岸辺りに適地があったので、今宵の宿に決めた。デポした荷物の回収に、さらに1時間半ほどかけると、結構よい時間になっていた。勤勉なアブが遅くまで舞ったが、暗くなってしまうえば快適な夜。焚火を囲んで幸せな気分にいるうちに、16日中に下山して最終日は温泉という話がまとまる。

8/15 曇り

5時起床。勤勉なアブが飛び始める。

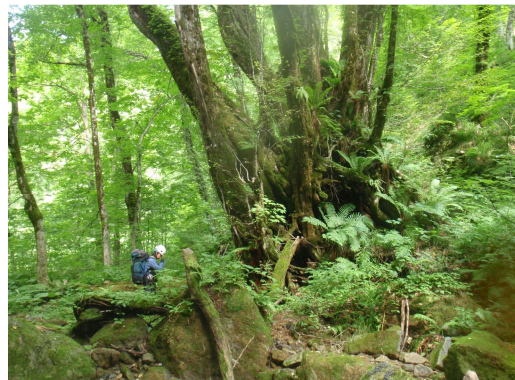
ショボい出合から登り始めるが、予想通り滝が連続する。地図の滝マークの周辺はナメが連続し、結構見栄えもする。一ヶ所荷上げをした滝があったほかは容易。ほと



【くの字滝】



【スラブ滝】



【桂の大木】

んどヤブをこぐこともなく 750m 付近の尾根に出た。朝の日差しの中、ブナ森を風がそよいでいる。下りの沢も滑りやすいナメが多くて面倒だが、問題となるようなところはない。最後に、岩を鉋で割ったようなゴルジュが唐突に現れ、身構えたが、中の滝は何の



【山越えのナメ】



【明神沢の滝。ロープを出して登る。】

問題もなくクライムダウンできた。すぐにこじんまりした明神沢本流との出会い。しばし休憩。沢が右に曲がる辺りにかけて、例によって桂の巨木がある森。さて、右岸からルンゼが入り、歩を進めて行くが、兩岸は急ではあっても沢床近くまで緑の木々が生えている。滝を 2~3 越えたと、あつという間に地図の滝マーク。遠目には厳しく見え、ロープを出してみたが水流の右側を楽に登ることができた。そして、いよいよ第 2 ゴルジュのはずだが、やはり、兩岸は緑が迫っており、ゴルジュには見えない。一生懸命お食事のカモシカ君がいたりして、豊かな自然を感じたが、拍子抜け。

沢が右に曲がり、ゲジゲジマークも切れたことから、幕場を探しながら行こうと言っていたのであるが……。次第に兩岸、特に右岸側が高くなっていく。こういう地形をゴルジュという。ただ、小滝が続くのみで、それほど厳しくはない。右岸から黒いナメ滝。丁岳に突き上げるルンゼで、滑っていて直登は厳しそう。その後も適度に登れる小滝が続いて楽しい。連瀑帯が終わった 790m 付近の草地に平地を見つけた。草を払って敷き詰めると良い幕場となった。計画では小又川方面に下ることになっていたが、明日は丁岳から温泉を目指すことにし、今日は酒とつまみを放出。この高度まで来るとアブもおらず、快適な夜となった。

問題もなくクライムダウンできた。すぐにこじんまりした明神沢本流との出会い。しばし休憩。

沢が右に曲がる辺りにかけて、例によって桂の巨木がある森。さて、右岸からルンゼが入り、歩を進めて行くが、兩岸は急ではあっても沢床近くまで緑の木々が生えている。滝を 2~3 越えたと、あつという間に地図の滝マーク。遠目には厳しく見え、ロープを出してみたが水流の右側を楽に登ることができた。そして、いよいよ第 2 ゴルジュのはずだが、やはり、兩岸は緑が迫っており、ゴルジュには見えない。一生懸命お食事のカモシカ君がいたりして、豊かな自然を感じたが、拍子抜け。

沢が右に曲がり、ゲジゲジマークも切れたことから、幕場を探しながら行こうと言っていたのであるが……。次第に兩岸、特に右岸側が高くなっていく。こういう地形をゴルジュという。ただ、小滝が続くのみで、それほど厳しくはない。右岸から黒いナメ滝。丁岳に突き上げるルンゼ



【黒滝】



【源流部。増水している】

8/16 曇り時々雨

夜半から雨がパラツいたが、焚火が流されるほどではない。

食事をしていると、時折雨が強まってきた。なかなか外に出る気になれないが、意を決して出発。水量は多く、笹濁りが入っている。すぐ先で右岸から入る枝沢は、10 倍くらいに増水しており、1:1 の二俣のように見えた。右から沢を入れると、滝が続き始める。スラブが出てきたら嫌だと思っていたが、しっかりした樹林の中をナメ小滝が連続する溪相が続く。枝沢を右に左に分け、しばらくで、ガスの中から水を落とす多

段の滝。中段から右を巻くと岸壁の下に出て嫌な感じがしたが、岩壁の下をトラバースして問題なく落ち口に出ることができた。ここからも、それなりに傾斜があるナメと小滝が行けども行けども続く。標高差にして50m以上。小雨が降る中、グイグイと標高を上げることができて、実に気持ちが良い。最後は、見晴らしのよい（であろう）ウルイ畑で一休み。嫌らしいスラブは最後まで現れず、15分程度のヤブ漕ぎで地形が平坦になり、山頂すぐ西側の登山道に出た。ガスの山頂で握手。



【丁岳山頂は雨】

雨がパラつくなか、予定通り登山道から下山。針葉樹やブナなど変化に富んだ原生林が美しい。ガスの隙間から、丁沢の立派な滝が垣間見えていた。登山口に出て一安心と思ったら、更に、アブにたかられ、雨にたたられと散々な林道歩きが待っていた。

タクシーで院内に出て、瀬見温泉へ。一風呂浴びた後は、冷たいビールで夏休みの山を締めくくった。予想通りの豊かな森に、人気のない沢、美瀑・連瀑。ヘソの曲がったメンバーに感謝！

【メンバーの感想】

私は前から気にしていた山域だったのですが、酒の席で思いつきで口にした「ひのと」が、まさか実現するとは思いませんでした。でもこんなメンバーだからこそ、未知の山域に興味を持ってくれて行こうという話にもなったし、困難な遡行を無事行けたのだと思います。お二人にはすごく感謝しています。この山域は初めてでしたが、カモシカやカワネズミ、何種類ものヘビやカエルなどなど、動植物が非常に豊かという印象を受けました。アブも盛りだくさんだったのは余計でしたが。また森もすごくきれいで、カツラを中心とした巨木がボンボンあったのがすごく印象的でした。近くはありませんが、また来てみたいところです。（田村）

馬には乗ってみよ、人には添うてみよ、知らない溪には行ってみよ！？場所を漠然と知っていた程度の丁山塊の沢に、お盆に行くことになろうとは。青春18きっぷでの田村さんとの9時間以上の鈍行の旅に始まり、新庄の食堂や真室川の駅や町という味のあるプロログを経て、さて入溪と思ったら長い長い林道歩き。アブにたかられ、巨木に見守られ、どこにも似ていない森を逍遥し滝また滝を登る。やっぱり人のいない山は良い。下山後はローカル線乗り継いで瀬見温泉にて打ち上げのおまけも付いて、言うことなし。たまには知らない土地も悪くない、と思った特定山域偏愛者の夏休みでした。（佐貫）

【グレード】 遡下降全体で3級上

【行程】

8/13 タクシー下車（9:30）－入溪（11:30）－C1（14:30）

8/14 C1（5:30）－出合（5:50）－スラブ滝上（9:00）－三滝山（11:10）－本流出合（14:15）－デボ地往復（15:45）C2

8/15 C2（5:40）－稜線（7:50）－明神沢出合（9:00）－C3（12:30）

8/16 C3（6:40）－山頂（8:50）－登山口（10:20）－上野宅（12:30）

【地図】 丁岳、差首鍋

